

# 歴史を訪ねて...

笠岡市の文化財

小寺清之は、敬業館初代教授・小寺清先の長男として、明和七年（一七七〇）、笠岡村で生まれました。通称を監物といひ、棟園と号しました。『備中名勝考』、『備中誌』などの著書はよく知られています。

清之は若い頃から秀才の名が高かったそうです。かつて西山拙斎と会ったとき、拙斎が試しに和歌百種を課したところ、次々に口述して書きとめる間がないほど作歌したので、拙斎も驚嘆したという逸話が残っています。

三〇歳のころ、父清先の跡を継いで、陣屋稲荷の神職となりました。そして文政三年（一八二〇）、五一歳で神職を子にゆずり、福山藩にたのまれて備後の市村におもむき、さらに深津村（いずれも現広島県福山市）に移って塾を開きました。武士から農民まで多くの人が学んだので、福山藩から五人扶持の給与を受け取るまでになったといひます。天保十四年（一八四三）、七四歳で亡くなりました。

墓は、笠岡小学校裏手の目立たない場所にあります。そのそばには、昭和五年につくられた「棟園小寺先生之碑」が立っています。碑文には清之の没後、関藤藤陰が書き残していた文章が刻まれています。



きよゆき  
小寺清之の墓  
市指定史跡

## 竹喬美術館みどころ 8

さわだ せきみん  
澤田石民展



澤田石民  
〈柿〉  
昭和5年頃

澤田石民は、明治38年（1905）に京都府の京丹波に生まれ、幼くして日本画を志しました。京都市立絵画専門学校に在学中から竹喬の僚友・土田麦僊に師事し、国画創作協会展に連続して入選するなど優れた技量を見せました。国展解散後は新樹社展や柏舟社展を活動の舞台としましたが、昭和19年（1944）に39歳の若さで戦死したため、その稀有な才能を十分に生かすことができませんでした。石民が描いた故郷の風景は大変緻密であり、同時に静けさを備えています。また、花鳥画では徹底した古典研究の成果がみられます。当時の京都画壇で誰もが認める逸材であった石民の「絵の巧さ」をお楽しみ下さい。

## 展覧会と行事のご案内

### 澤田石民展

会期中～平成21年2月1日(日)  
休館日 毎週月曜日  
12月29日  
～1月3日  
開館時間 9:30～17:00  
(入館は16:30まで)  
一般500円 市内在住の  
小中学生及び65歳以上  
の人は入館無料です。  
※小野竹喬作品も展示

新春の入館記念品贈呈  
平成21年1月4日(日)  
9:30～16:30  
入館者全員にくじびき  
による記念品の贈呈が  
あります。

〒714-0087  
笠岡市六番町1-17  
☎63-3967  
ホームページ  
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

## 今月の表紙

笠岡の秋の恒例行事「いちよう祭りかさおか」が11月16日、笠岡商店街と県庁通り一帯で開催されました。市役所前のステージでは、チアダンスや和太鼓、大道芸などが次々と行われ、集まった多くの観客からは歓声と大きな拍手が送られていました。また、子どもふろしき市やフリーマーケットなどが出店され、大勢の家族連れでにぎわいました。

## 係から

12月に入ると気忙しい。年頭に立てた計画も達成の見込みの無いものをさてどうしたものかと思ひ悩みます。何とか年内に出来るどころまでと取り直して大晦日まで遣り繰り考へるのも毎年のこと。焦って手を付けて準備不足。結局は不首尾に終わり、沈んだ気持ちは年越しとならぬように、出来ないことをそれはそれとして割り切ること必要と、自分に寛容になるのも師走です。(笠)

発行日／平成20年12月1日  
発行／笠岡市役所  
編集／企画政策課  
〒714-8601 笠岡市中央町1-1  
☎69-2110  
印刷／(株)国輝堂 ☎67-5111



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。